

# eラーニング グッドプラクティス 共有プロジェクト

申請代表者： 樋口 三郎 (理工学部)

共同研究者： 井ノ上 智啓 (情報メディアセンター)

上原 徹 (理工学部)、高田 文彦 (情報メディアセンター)

中谷 麻里 (情報メディアセンター)

丹羽 奈緒子 (情報メディアセンター)

## 研究目的

本学の個々の教員がこれまでに得たeラーニングに関する事例・知識・経験の相互共有を行い、eラーニングのさらなる普及に寄与し、学生の学修環境をより効果的にすることが目的である。eラーニングを使用している教員とこれから使用しようとする教員が、教育の良好

事例(グッドプラクティス)を互いに共有しあうことを促進する活動を行う。最終的には、記録としてのグッドプラクティス集の作成に加え、数年スパンでの教員のeラーニングの教育使用の知識の増加、教員間の情報流通の増加、eラーニング利用授業数の増加をめざす。

## 研究内容

### (1) eラーニングに関する学会・研究会での情報収集・調査

PCカンファレンス2013 (東大駒場, 2013-08-03-05) で、大学におけるeラーニングの実践および製品・サービスに関する調査・情報収集を行った。

### (2) 学内外の注目すべき授業事例の調査

以下の授業の参観および聞き取りを行った。

- ・川元康一先生 (経済学部) マクロ経済学入門 のMoodleコース
- ・携帯出席確認システム attend ユーザの利用法
- ・商用の携帯電話利用学習支援サービス C-learningの他大学のユーザの授業

### (3) 携帯電話利用学習支援サービス C-learning の試用・調査

以下の2つの授業で試用・評価した。

- ・計算科学II 樋口三郎 (理工学部)
- ・日本の仏教と文化 道元徹心先生 (理工学部)

### (4) eラーニングユーザーミーティングでの注目すべき授業事例の収集および紹介

主に瀬田学舎で昼休みにeラーニングユーザーミーティングを5回実施した(表1)。

### (5) 共通して使用可能なコンテンツや利用案内の作成・紹介

教員が利用できる手引きやコンテンツなどを編集・作成した。一般に公開されている案内や書籍の紹介も作成した。

### (6) 紙媒体・プロジェクトWebサイトでの(1)-(5)の情報の公開・共有

eラーニングシステム上のプロジェクトのWebサイト (<http://bit.ly/eLGP-Ryukoku> 図3) で情報を共有している。センターニュースなど紙媒体によっても共有を行った。

表1: eラーニングユーザーミーティングで取り上げた話題

回	話題提供者	内容
1	内田浩先生 (国際文化学部非常勤講師)	Moodleの語学教員・非常勤講師としての利用法
2	N. M. Terhune 先生 (国際文化学部)	How Moodle and Moodle Reader can be used in English education using the Ryukoku University e-Learning system
3	阪井一繁先生 (理工学部)	初めてのeラーニング (図1, 図2)
3	樋口三郎 (理工学部)	Moodle 2.4 クイックツアー
4	高田文彦 (情報メディアセンター)	PC Conference 2013 報告
4	樋口三郎 (理工学部)	プロジェクト中間報告
5	道元徹心先生 (理工学部)	授業での携帯電話の利用: attend と C-learning
5	上原徹 (理工学部)	Moodleの自前サーバ、レンタルサーバへのインストール



図1: 第3回eラーニングユーザーミーティングの様子



図2: 第3回eラーニングユーザーミーティングで紹介された、計算機基礎実習Iでの利用事例(グッドプラクティス集に収録)

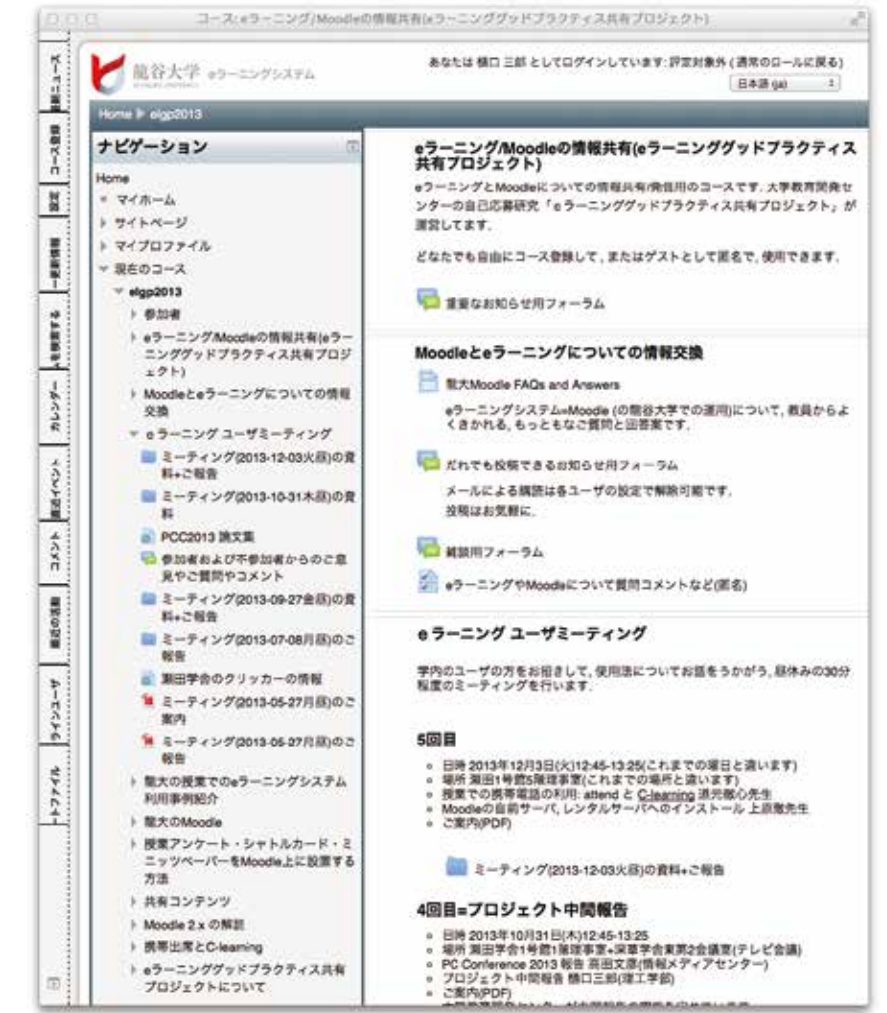


図3: プロジェクトのWebサイト (<http://bit.ly/eLGP-Ryukoku>) グッドプラクティス集、利用案内、コース雛形など共有コンテンツを掲載

グッドプラクティス集  
利用案内など共有コンテンツ

<http://bit.ly/eLGP-Ryukoku>

学外向け

<http://www.a.math.ryukoku.ac.jp/~hig/eproj/elgp/>



## 研究成果

### eラーニングユーザーミーティング

eラーニング利用経験有・無の新しい参加者を毎回得て、活発な議論を行うことができた。発表内容は大学教育開発センターニュースとして紙媒体で配布するとともに、プロジェクトのWebサイトに集積した。最終的には、これに基づいたグッドプラクティス集を作成してWebサイトで配布した。特に汎用性があり注目すべきLMS使用の2類型として、マクロ経済学入門と計算機基礎実習Iがある。前者は、教員から学生への情報発信に特化しており、資料の配付やお知らせ、中間テストの点数の通知などを行っている。後者では、教員からの情報発信に加え、学生からの課題の受取と、学生が答えると正誤が判定されるドリル的な教材が置かれている。

### 今後の課題

本プロジェクトは、eラーニングシステムを使用している、使用しようとしている教員の間を、ミーティングやプロジェクトサイトを通じてつなげる試みだった。情報共有によるeラーニングの普及を進めるためには、他に、次のような要素が有効である可能性がある。

1. 複数教員によって運営される、または、年度により担当者が変わるような、複数教員が関わる科目へのeラーニングの普及を優先的に進める。現に、eラーニングを使い始めたきっかけとして、科目共同担当者内での紹介、前年度担当者からの紹介、などが一定数あることが、本プロジェクトでの調査により判明した。

### eラーニングコンテンツ

- ・大学教育開発センターの「学期半ばの授業アンケート」や「授業で活用できる教育支援ツール」をeラーニングシステム上で行う設定ファイル
- ・あらかじめ主要部品と成績計算ルールを配置したコーステンプレート
- ・Moodle 2.xへの移行 (2013年9月) の際の、コースの移行方法や注目すべき新機能についての参考書などの情報

### 携帯電話利用学習支援サービス C-learning

2科目において、既存の携帯出席確認システム attend を置きかえた利用が可能であることが確認できた。うち1科目においては、連絡・資料配布・短文による課題提出、ファイルによるレポート提出などに有効に活用できることが確認できた。

2. eラーニングシステムの運用において情報共有を促す。教員が自分のコースを部分的に他の教員に公開しやすしたり、使用科目-教員リストを目立つところに置いたりするなどが考えられる。

3. eラーニングシステムの、授業と限定しない、教員の研究グループ、実務グループでの使用の普及を進める。

